

これは
千代田区の
情報です

ビジネスプロデューサー

内田研一さん × 小林たかや

たかや通信31号 令和5年2月

直撃インタビュー
第4回

内田研一(うちだけんいち) ビジネスプロデューサー 微細加工工業会事務局長
1994年早稲田大学商学部卒業。システム会社、経営コンサル会社を経て、2003年より波力発電ベンチャー等、数十件のベンチャー立ち上げに係わる。地域キャラクター観光&物産展in秋葉原“Moe1”総合プロデューサーなど千代田区の事業にも多数参加。

数々の中小企業の立ち上げに関わってこられたビジネスプロデューサーの

内田さんは、私にとって「困った時に駆け付けて助けてくれる人」

今回は秋葉原の再開発についてお話をうかがいました

秋葉原クロスフィールドとおもてなしプロジェクト

内田: 今や千代田遺産とも呼ばれている「秋葉原クロスフィールド」ができた2005年。私が4階のITセンターのプレゼンターを務めたのが小林議員と出会ったきっかけでした。

小林: 当時都知事だった石原さん肝入りの、秋葉原駅付近土地区画整理事業ですね。そういえば、秋葉原にスカイツリーを建てるなんていう話もありました。

内田: 秋葉原の観光地化が進み、海外からの観光客も増え始めていたので、おもてなしプロジェクトを議員に提案しましたね。NPO法人秋葉原観光推進協会と協力し、英語対応できるお店を増やし、外国人観光客を誘致する活動です。知り合いの大手アニメ制作会社の社長にお願いして、プロジェクトの公式キャラクターをデザインしていただいたり、協力店にステッカーを貼るなどしました。

小林: 私たちはなんでも時代を先取りしすぎてしまうんです。キャラクター利用も少し早すぎたかな。

内田: そうですね(笑) この時のキャラはカードゲーム化やノベル化もされて、今でも秋葉原のおもてなしキャラとして活躍しています。

情報誌『あきば通』で情報発信

小林: おもてなしの精神でいいますと、私は以前『あきば通』という秋葉原の情報誌の編集長を務めていました。秋葉原の地図や歴史、コラムなど盛りだくさんの内容で、観光客や秋葉原を訪れる人がまちをより楽しむことのできる情報

を発信していたんです。

また、アキバ好きの若者とまちの清掃を行う「秋葉原おそうじ志隊」もこのころから始めて、通算15回となりました。

内田: 覚えています。『あきば通』はとてもよくできたフリーペーパーで、当時話題となりましたね。



「敷地でなくエリアのクオリティを高めることが、孫の世代に継れるまちづくりにつながります」

コミュニティの復活と「生み出す」まちへ

小林: 秋葉原は目まぐるしく変化してきましたが、これからを考えることも重要です。

内田: 秋葉原は戦後の露天商に由来するガード下の部品小売りから始まり、部品の卸売り、家電量販店のまちへと変化しました。テレビ、ラジオ、パソコンと移り変わり、ゲームやキャラクターというものが商品になったころから地元の人々との乖離が始まりました。今の秋葉原のよいところも残しながら、古きよき製造部品中心だった秋葉原のコミュニティを復活(ルネッサンス)させることで、新しい秋葉原を築き上げたいですね。

小林: まさに、アキバルネッサンスですね。よい地域は決まって下町が元気です。神田も含め秋葉原を、消費するだけのまちから生み出すまちへ変える。また、それは千代田区全体にもいえることです。“古き良き”ものを復活させながら、新しいまちを作る千代田ルネッサンスを目指していきたいと思います。

※ルネッサンス:文芸復興

たかやFAX 03-3253-9877

小林たかや後援会事務局
〒101-0021
千代田区外神田3-6-5
小林たかや
www.takaya-k.com



目ざせー千代田ルネッサンス



「自分のまちに愛着が持てる人間関係を、秋葉原そして千代田区に復活していきたいですね」